

# 認知症ケア学習用シミュレーション教材の開発

## Development of Simulation-Based Teaching Materials for Studying Dementia Care

橋本 力<sup>\*1</sup>, 中島 智晴<sup>\*1</sup>, 前川 泰子<sup>\*2</sup>, 山本 美輪<sup>\*3</sup>,  
Riki HASHIMOTO<sup>\*1</sup>, Tomoharu NAKASHIMA<sup>\*1</sup>, Yasuko MAEKAWA<sup>\*2</sup>, Miwa YAMAMOTO<sup>\*3</sup>

<sup>\*1</sup> 大阪府立大学, <sup>\*2</sup> 関西福祉大学, <sup>\*3</sup> 鳥取大学

<sup>\*1</sup> Osaka Prefecture University, <sup>\*2</sup> Kansai University of Social Welfare, <sup>\*3</sup> Tottori University

Email: riki.hashimoto@kis.osakafu-u.ac.jp, tomoharu.nakashima@kis.osakafu-u.ac.jp

**あらまし:** 現在, 認知症患者は増加傾向にある一方で, 認知症患者のケアは困難であると言われている。そのため, ケア技術を学ぶには学習段階で経験を積む機会が必要である。本稿では学生の認知症患者をケアする経験を増やすためのマルチエージェントシミュレーション教材を開発した。シミュレーションの内容は基礎実習を基に作成しており, 学習者は患者役, 看護師役に分かれて行動する。ケア終了後, 適切なケアについて考えるためにシミュレーションの内容を振り返りながらディスカッションを行う。

**キーワード:** 認知症, シリアスゲーム, シミュレーション, 基礎実習

### 1. はじめに

近年, 高齢者の数は増加傾向にあり, 2015 年では, 高齢者人口は総人口の 26.7% であると発表され<sup>(1)</sup>, 日本の約 4 人に 1 人は高齢者である。また, 高齢者の約 7 人に 1 人は認知症患者と言われている<sup>(2)</sup>。認知症患者のケアは一般的に難しいと言われているため<sup>(3)</sup> 学生のうちから経験を積む機会を設けることが重要になってくる。

認知症には中核症状と周辺症状がある。中核症状とは, 認知症を患うと必ず発症する症状である。中核症状の例として, 直前に起きたことを忘れる記憶症状等が挙げられる。周辺症状とは, 中核症状をもとに周りの人や環境によって変化する症状である。周辺症状の例として, 暴言や暴力, 幻覚等が挙げられる。この周辺症状によって, 認知症の症状は患者ごとに違うため, それぞれ患者に合わせたケアが必要となる。そのため実習の積み重ねで得られる経験が重要となる。

看護における実習では, 教科書で得た知識を基にして, 実際の患者と接する訓練を行う。実習には看護実践能力が養われることや, ケアが上手くいくことで自信につながるといったメリットがある。しかし, 実習にはいくつか問題点がある。例えばケアが上手くいかないと患者の命に関わるため, 学生自身が失敗を恐れ萎縮してしまう問題点がある。また, 実習をするためには患者や実習を行う病院が必要となるが, 必ずしも準備できるとは限らない。そのため, 実習に代わる学習法が求められている。近年の日本では, 学生が安心して学習でき, 場所などの制約条件もない学習法としてシミュレーション学習に力が注がれている。しかし, 認知症ケア学習のシミュレーション教材はまだ研究が進んでいない。

若山ら<sup>(4)</sup>は, 認知症ケア理解のためのシリアスゲームを開発した。しかし, 開発されたゲームはテキストを読むことが中心のノベルゲームがベースになっており, 教科書による学習とあまり変わらない問

題があった。そこで本研究では, シリアスゲームの利点をより生かし, 実習を意識した認知症ケア学習用シミュレーション教材の開発を行っている。

### 2. シリアスゲーム

シリアスゲームとは, ゲーム本来の楽しさを保ちつつ, 娯楽目的ではなく教育や社会問題の解決を目的としたゲームである。教科書による学習と比較したシリアスゲームの利点として以下が挙げられる。

- ゲームの特徴を活かすことで, 学習意欲を維持させやすい
- 視覚的で手を動かして学習するため, 理解が難しい概念の習得に適している

本研究ではシリアスゲームの利点を生かした教材を開発する。

### 3. 看護におけるシミュレーション学習

看護におけるシミュレーション学習とは, シナリオに従いながら模擬患者やシミュレーションを使い, 看護実践能力を学習するものである。利点としては以下が挙げられる。

- 学習者・患者の安全を保障
- 学習者中心の教育を展開可能
- コミュニケーションスキルの習得

また看護におけるシミュレーションは主に 3 段階の手続きに分けられる。

1. 事前学習: 学習目標に沿った内容を学習する
2. シミュレーション: 擬似的な学習環境下で実際に課題を行う
3. デブリーフィング: 目標に沿ってシミュレーション内容振り返る

本研究では, シミュレーションとデブリーフィングに焦点を当てた教材を開発する。

## 4. 教材の開発

### 4.1 シミュレーション内容

シミュレーションでは、看護学生の二回生が行う基礎実習を想定している。基礎実習は患者一人に対して学生一人がケアを行うという内容である。具体的な基礎実習の流れは以下の通りである。

1. 申し送り：先輩看護師や電子カルテの情報から患者の情報収集を行う
2. 患者に挨拶：担当患者の部屋に行き挨拶をする。その後、コミュニケーションから患者の情報収集を行う
3. 体調チェック：担当患者のバイタルチェックを行い、体温・血圧・脈拍を検査
4. 担当看護師に報告：担当看護師に自分が担当患者に行ったケアと結果を報告
5. 昼休憩：午前の情報を整理
6. 患者と会話：担当患者の部屋に行き、コミュニケーションから患者の情報収集を行う
7. ミーティング：その日に行ったケアに対して看護師同士で話し合い

本研究においても、この流れに即したシミュレーション学習が可能な教材を開発する。

### 4.2 教材の内容

学生は看護師役・患者役に分かれて行動する。看護師役は電子カルテの情報とバイタルサインからケアを行い、患者役はペーパーペイシエントの設定と看護師のケアに合わせて行動する。ペーパーペイシエントとはある実際の患者の情報を学習用に整理した紙上患者を表す。

図1に本シミュレーションの仮想実習フィールドを示す。本シミュレーションでは、学生は図1のフィールドの中でケアを行う。図2に先輩看護師から申し送りをしているシーンを示す。はじめに看護師は図2のように先輩看護師から話を聞くことや、電子カルテを確認することで患者の情報収集を行う。次に、指定された時間に看護師は患者の部屋に行く。図3に患者と看護師が会話しているシーンを示す。図3のように患者と看護師は同じ部屋に入ることによって会話が可能になる。会話はチャット形式で行う。図2, 3の上に表示されているシミュレーション内時間に従って看護師役は行動する必要がある。

シミュレーション終了後、シミュレーション内容を振り返り、学生同士でディスカッションを行うことや、先生にシミュレーション内で選択したケアについてアドバイスをもらうことで、学習を振り返りながら適切なケアについて考える。これにより、基礎実習に即した学習を展開可能となる。

## 5. おわりに

本稿では、シミュレーション教育について概観し、本研究で開発中の認知症ケア学習用シミュレーション教材の紹介を行った。

今後の課題として、看護学生を対象に開発したシミュレーション教材を使った実験から、看護学生の心境変化や教材の質評価を行う。

### 参考文献

- (1) 内閣府，“平成28年版高齢社会白書，” <[http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/html/z\\_enbun/sl\\_1\\_1](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/html/z_enbun/sl_1_1)>，2019年2月1日アクセス。
- (2) 内閣府，“平成28年版高齢社会白書，” <[http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/html/z\\_enbun/sl\\_2\\_3](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/html/z_enbun/sl_2_3)>，2019年2月11日アクセス。
- (3) 小山 尚美，流石 ゆり子，渡邊 裕子，森田 裕代，萩原 理恵子，“一般病棟で集中的な医療を要する認知症高齢者のケアにおける看護師の困難”，日本認知症ケア学会誌，第13巻，第2号，pp.408-418 (2013)
- (4) 若山 大輝，中島 智晴，前川 泰子，藤井 崇敬，山本 美輪，“シリアスゲームを用いた認知症教育用教材の開発と評価，” システム制御情報学会研究発表講演会講演論文集，(2016)



図1 仮想実習フィールド



図2 申し送りシーン

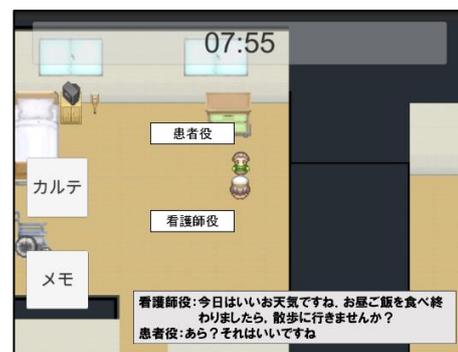


図3 患者と看護師の会話シーン